

平成28年度第1回岩手県後期高齢者医療広域連合運営協議会 要旨

- 1 開催日時 平成29年2月7日（火）午後2時00分から午後3時56分
- 2 開催場所 岩手県自治会館 3階第2会議室
- 3 出席委員 瀬川委員、村松委員、久慈委員、佐藤委員、伊藤委員、小野寺委員、滝田委員（代）、大黒委員、押切委員、細江委員、佐々木委員（代）
- 4 傍聴者 3名

5 会議の概要

(1) 説明

次の事項について、事務局から説明した。

ア 後期高齢者医療制度の動向について

イ 岩手県後期高齢者医療広域連合の運営状況について

ウ 岩手県後期高齢者医療広域連合第3次広域計画(案)について

(2) 主な意見等

【委員】岩手県の後期高齢者一人あたりの医療費は新潟県に次いで全国で下から2番目という説明があったが、他県と比較して健康だから医療機関を受診する必要がないのか、それとも、医療機関までの距離が遠いことや施設数が少ないために受診したくてもできないということなのか。

【委員】後期高齢者一人当たりの医療費の県内地域差について要因の1つは、高度な医療を提供する施設が被保険者の近隣に存在するかどうかではないか。

【委員】後期高齢者一人当たりの医療費の県内地域差についての要因として考えられるのは、医療機関の受診及び薬の服用をしている高齢者に差異があるからではないか。
保健師に聞いたところによると、県内都市部では、ほとんどの高齢者は健康維持のために薬を服用している傾向がある。一方、都市部から離れた周辺部では、医療機関を受診して薬を使用することが望ましいけれども、受診や薬の服用をしていない高齢者が多いとのことであった。

【委員】岩手県のジェネリック医薬品の使用率が高いことは、県立病院がジェネリック医薬品の使用を推進していることも理由として考えられる。また、一人あたりの医療費が高い地域について、都市部においては医療施設が多いことが考えられる。
一方、沿岸の一部でも医療費の高い地域があるが、これは、東日本大震災の被災者について一部負担金の免除を継続していることが原因の一つとして考えられる。

【委員】ジェネリック医薬品の利用を進めることで、被保険者の負担も軽減することができるこ

とから、県民運動として取り組むことや、より一層医師会と連携を進めていただきたい。

【委員】 シルバー人材センターは、活動を通じて高齢者に「元気老人」になっていただくことで医療費の削減に貢献していくのが役割であると考えている。

【委員】 歯を治療して、よく噛むことのできる高齢者は、医科のレセプト点数や医療費も低い傾向がある。このことから、歯の健康維持は医療費の削減につながるため、この部分の関連等についてデータの分析や周知を行ってほしい。

【委員】 ジェネリック医薬品の利用促進の通知が手元に届くと驚かれる被保険者もいる。しかし、この通知がジェネリック医薬品に切り替える一つのきっかけであることから、今後も取り組みは進めていただきたい。